

【中学校・自然に関わる体験活動】

ウミガメの保護観察活動を通して命や環境問題について学ぼう
徳島県阿南市立椿町中学校

学校の概要

学校規模

学級数：3学級

生徒数：66人

教職員数：12人

体験活動の観点からみた学校環境

本校校区は、阿南市の南東部に位置し、戸数は約700戸、人口2,400人である。U字形の椿泊湾を取り囲み、湾の両側が「蒲生田」「椿泊」、湾の奥に流れ込む椿川の流域が「椿」であり、この3地域で校区を形成している。

蒲生田地区は四国最東端にあり、室戸阿南海岸国定公園の一角を占め、毎年6～8月にかけてウミガメが産卵することで知られている。椿泊地区は湾岸に沿った細い道の両側に約350軒の家並みが直線的に密集した地域であり、良港に恵まれた典型的な漁業の町である。椿地区は三方を山に囲まれ、東が椿泊湾に面して開かれている。市中心部の農地に見られるような開発はなく、農村地帯である。

生徒たちは自然環境に恵まれているものの、それを生かした体験に乏しい。

〒779-1750

徳島県阿南市椿町宮ヶ谷23番地

電話：0884-33-1008

FAX：0884-33-1009

ホームページ：

<http://www.infoeddy.ne.jp/tubatyu/>

電子メール：

tubatyu@mb.infoeddy.ne.jp

体験活動の概要

活動のねらい

身近にあるすばらしい自然に目を向け、その中で活動することを通して、自然を愛する心や大切にできる態度の育成を図る。

自然界のシステムや人とのかかわりを学び、共に生きていこうとする態度を育てる。

仲間と共に考え、工夫し、解決していかうとする意欲を養い、さまざまな活動を通して生きた学力の向上を図る。

主な活動内容・方法(位置づけ・期間等)

自分の身の周りにおける自然環境の変化を知る。(総合的な学習の時間10時間)

自分たちの住む町の環境調査

(総合的な学習の時間5時間)

ウミガメの保護観察活動

(総合的な学習の時間25時間)

体制等の工夫

傷害保険への加入

「総合的な学習の時間」研究グループを持ち、全校体制で取り組む。

活動の成果等

地域への関心が高まった。また、地域や親子のふれあいが強まった。

自然環境への関心が高まり、環境保全への活動に積極的になった。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

ア ウミガメの保護観察活動を通して、自然を愛する心、かけがえのない命を大切にすることを育てる。

イ 共に学ぶ中で、協力して解決していこうとする態度を育てる。

ウ 地域、保護者、先輩の教を請うことによって、人と人とのつながりやふれあいを大切にできる姿勢を身に付ける。

エ 図書室利用、インターネットの検索等、必要に応じて資料を見つけだす力を身に付ける。

オ 自ら学んだことを表現する力、地域等に発信する技術を身に付ける。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

総合的な学習の時間「椿中わくわくタイム」

イ 実施学年

第1学年

ウ 活動内容

(ア) 身近にある自然の実態を自分たちの目で確かめ、環境破壊と環境保全について学ぶ活動
気になる自然(海、山、川、動物、植物等)の写真撮影体験 郷土の自然マップの作成

(イ) ウミガメの保護観察活動

- ・絶滅危惧種としてのウミガメについて学ぶ。
- ・これまでの研究について、先輩や地元の方々のお話を聞く。
- ・蒲生田海岸の清掃活動
- ・卵の採取と孵化場への移動
- ・孵化場での観察
- ・孵化後の子ガメの観察と放流会の実施

エ 教育課程上の位置づけ

(ア) 「総合的な学習の時間」に位置付けており、週2時間(月曜日の5, 6時間目)、年間70時間である。

(イ) 活動内容によって、教科、道徳、特別活動との関連を図っている。

オ 実施時期(日数や時間数)

(ア) 日数は、4月から3月(ただし、ウミガメに関する活動は、1, 2学期)

(イ) 時間数は、総合的な学習の時間70時間、理科2時間、国語2時間、社会2時間、美術2時間 計78時間

カ 活動場所

学校、蒲生田海岸

キ 継続の状況等

これまで蒲生田小学校が築いてきた「ウミガメの保護観察活動」を引き継ぐ上において、事前に郷土の自然環境や地域の人々の自然に対する考え方等を調査し、ウミガメも含め、郷土の自然について学んだ。さらに、先輩の研究の跡をたどり、今後の研究方針を決定した。事後、学習の記録をもとに、各自やグループで新聞を発行したり、ホームページに記載したりして地域、保護者に発信した。今後、地域との取り組みと共同歩調をとりながら、また、情報交換しながら取り組むことになっている。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 椿の自然環境について

校区にある蒲生田海岸は、アカウミガメの産卵地として知られ、海岸面積に比べ上陸頭数の多い有数の海岸である。生徒にとっても郷土の誇りであり貴重な財産である。しかし、数は年々減少しており、この中学校が保護観察を始めた2年前の年には過去最低の6頭という数字であった。このことを取り上げ、人間のためにつくられた堤防、ゴミの問題、海岸でのたき火、地球温暖化など、考えられる要因について生徒たちに気付かせた。他にも、絶滅の危惧に瀕している種が少なくない現状について知ること、これらの問題はアカウミガメだけの問題ではなく、生物全体そして私たちにも大きな影響を及ぼすことに気付いた。

また、アカウミガメ以外にも、椿川の白魚や蛸、海の魚、魚礁など自然的財産は豊富である。自分たちの町を取材・調査し、自然環境の素晴らしいところと、それらを守るために改善すべきところの両面からとらえ、考察を加えて新聞形式でまとめた。

取材の仕方やカメラワークについては新聞記者の方を講師に招いて、実際にフィールドワークにも参加していただき、指導していただいた。

このことから、自然環境と人間とのつながりの中で、問題点を考える原動力になった。

イ アカウミガメの保護観察活動について

上述したように、アカウミガメは郷土の誇りであり、その保護活動はこの学習を行っていくには必要不可欠の内容である。今年3年目になるが、過去のデータを元に、アカウミガメの生態を知り観察保護のための最善の方法を考えた。

(2) 活動の展開

ア 年間指導計画

学期	月	時数	学 習 内 容	学 習 活 動	備 考
1	4	10	自分の周りにおける自然環境の変化を知る	オリエンテーション アカウミガメの減少、漁獲高の変化から環境の変化について知る	理科
	5			絶滅危惧種について調べ、その原因や問題点を考える	
	6	30	自分たちの住む町の環境を調査する 自分たちの生活と環境の関わりについて考える	校区のフィールドワーク 自然環境の素晴らしいところや、それが守られていないところの両面から調査し、環境新聞をつくる	外部講師
	7			水槽の設置 蒲生田海岸の清掃をする アカウミガメの卵を採取 アカウミガメ保護活動への心構えについてお話を聞く	外部講師 地域住民とともに 外部講師
8	気持ちを込めて、カメのストーンペインティング(石に絵を描く) 卵の保護観察			美術科	
2	9	10		孵化したカメの飼育 放流会 気持ちを込めて俳句作り	国語科
	10			孵化場、水槽の後かたづけ 保護観察活動をまとめる(文化祭で発表)	

イ 活動の場所や施設

(ア) 卵の採取に関しては、宿泊訓練を兼ね、今は休校になっている蒲生田小学校の体育館を

借りて活動を行った。

- (イ) 採取した卵を孵化するための孵化場については、ウミガメの保護観察活動をするようになった3年前に設置した校舎内の孵化場を利用している。孵化場は3ブロックに仕切られ、事前に生徒たちが蒲生田海岸からバケツで運んだ砂を満たした。
- (ウ) 孵化した子ガメを放流までの1～2週間飼育するための水槽については、蒲生田小学校がかつて保護観察していた水槽を借り受けたものである。玄関に設置し、海水は生徒たちが運び入れた。
- (エ) 校区内とは言っても学校から蒲生田海岸までは1.2kmほどあり、清掃活動、砂運び、卵の採取等の活動に関しては、バスを利用した。

ウ 指導者・協力者

担任教諭，副担任教諭のほか管理職，他学年教諭，養護教諭等も協力している。

さらに外部指導者として、ウミガメの生態，卵の採取方法，観察方法等については，長年現地でウミガメの上陸頭数やその日の気温，砂温等を記録している地元の方，3年前に取り組み，成果を上げた先輩，地元のウミガメ研究者等をお願いし，水槽設置や孵化後の子ガメのエサ等の支援については，地元の漁師の方をお願いした。情報源としては，全国ウミガメ協会からの“ウミガメ情報”も活用した。蒲生田海岸でウミガメを採取し研究を続けている姫路水族館に問い合わせることもあった。

エ 生徒の活動の状況

(ア)【ウミガメを迎える準備】

孵化場の砂の清掃，水槽の設置を地元の方に講師をお願いし，指導していただいた。海水の運搬などすべて自分たちの手で行うことで，これから行うウミガメ保護の意欲も高まった。

(イ)【ウミガメの卵の採取 - 孵化場への移動】

夏休みを迎えてまもなくウミガメの上陸頭数の増える頃，休校となっている蒲生田小学校を集団宿泊訓練（1泊2日）の場所として選び，一連のウミガメの保護観察活動の一環とした。日程は，次のとおりである。

7 / 2 3 (月)

9:00	椿町中学校出発（バス）
9:30	開校式と諸注意，体育館清掃
10:00	地域の方からアカウミガメの話を聞く
11:00	岬めぐり（昼食） 海岸クリーン作戦
15:00	飯ごう炊さん
18:00	アカウミガメ観察計画
18:30	レクリエーション
19:00～	アカウミガメ観察

7 / 2 4 (火)

6:00	起床
9:00	ストーンペインティング （拾った石にウミガメを描く）
10:00	アカウミガメの卵を採取
10:30	体育館及び周辺の後片づけ
11:00	蒲生田小学校出発（バス）
11:30	卵を学校内の孵化場に移動

ウミガメの保護観察についての意義や注意点等について，地元のウミガメ研究者をお願いし，話をしていただいた。海岸クリーン作戦では，蒲生田岬から小学校までの海岸線に打ち上げられているゴミやキャンプの後に捨てられたゴミを拾った。すべて中学校に持ち帰り，

ゴミ収集日に出すようにした。

上陸の見回りには30分交代で生徒が海岸を見回った。産卵状況は見えなかったが、その時に産んだと見られるカメの足跡が見つかり、県の許可を得て卵を採取した。卵は全部で62匹あり、日に当たらぬよう注意深く、砂を入れたバケツに移し替えて学校に持ち帰った。孵化場では卵の上下を間違わないように埋めていった。



〔細心に注意して採取！〕

(ウ)【孵化場での観察 - 飼育】

孵化までの日数は50日～80日といわれるが、夏休みの間、温度調整のため極端な雨に注意しながら生徒は、分担日を設け観察を続けた。

2学期が始まって、産卵から59日後の9月20日、無事に43匹の子ガメが誕生し、設置していた水槽に移した。確認のため砂をそっと掘り進めると、3匹の子ガメが孵化途中であった。その誕生は、生徒たちにとっては感動の瞬間であり、命の尊さを実感した一瞬であった。



〔大きくなったかなあ〕



〔さあ、元気に旅立ちだ！〕

なるべく早い放流がよいので、飼育については約二週間とし、餌やりと身長・体重の測定を行った。過去2年間のデータから、餌には人口餌よりはオキアミ、オキアミより魚を細かく切ったものがよいということで、地元の漁師さんに協力をいただいた。子ガメが水槽の中を自在に泳ぎ、息を吸うために水面に顔を出す様子を目の当たりにし、カメが水面に浮いたところを鳥が捕らえたり、大きな魚が食べたりするという現実を肌で感じたようであった。

(エ)【放流会】

放流会の計画を立て、地元の方々、保育所の子どもたち、ふれあい学級の生徒たちを招いて一緒に放流することになった。手のひらに載るぐらいの子ガメたちが、小石にぶつかりながらも懸命に海を目指していく姿を、生徒は深く心に刻み、命への思いをふくらませた。

孵化場、水槽の後かたづけも、すべて生徒たちの手で行い、来年後輩へ受け継ぐ準備もできた。これらの活動を通して、生命の尊さや輝きへの感動を実感することができた。

放流会での俳句(生徒作品)

・潮風に 引かれていくよ 海の中 ・ウミガメの 今旅立った 夢のせて ・亀の子や 今ときはなたれて 海の中 ・10年後 待っているよ この町で

(3) 事後の指導

1年間のまとめとして、これまで実践し記録してきたものを、それだけにとどまらず、地域社会へ発信する予定である。自分だけの思いから、地域へと思いを広げていくために、表現の方法や発信する手立てを考えた。ホームページの作成、環境かるた、ポスターやマンガでのアピール等を通して、生徒は学んできたことを確認することとし、環境に対するこれからの在り方、人間としての生き方を考えていく力になると考えている。

3 体験活動のための体制

(1) 学校と教育委員会、地元の方との連携

徳島県教育委員会指定「環境学習事業プログラム」(平成10～平成11)・「新教育課程推進事業」(平成11～平成13)の取組として、また、阿南市教育委員会「地域活性化」の事業の一環として、現在休校中の蒲生田小学校が取り組んでいたウミガメの保護観察活動を再開することができた。県・市の担当者との連携、実施報告書の作成等を行っている。

(2) その他

幸い利用する生徒はいなかったが、病気やけがについては、日本体育・学校健康センターの災害共済給付以外に、全生徒が加入している傷害保険で対応するようにしている。諸経費については、県、市の事業費でまかなっている。

4 成果と課題

生徒たちは、一連の活動の中で、ウミガメにふさわしい環境が、人間にとってもよい環境であることを実感し、また、かけがえのない命を体感したようである。また、地域と密着した活動ができたことは生徒たちにとっても郷土を見直すよい機会となった。自分たちができる環境保護として今後の取組につないでいく予定である。次に掲げるのは生徒の感想である。

- ・ 僕は蒲生田のカメが減ったのは、ゴミのせいだと思います。だから釣り人や僕たちが捨てているゴミを減らすためにゴミ箱を作りたいです。
- ・ 私は海岸のゴミを減らしたいと思います。私たちが放流したカメが泣いています。ビニール袋などをエサとまちがえて食べて死ぬカメが多いそうです。町中の人に協力を呼びかけたいと思います。
- ・ 海を守るため、町を守るため、ウミガメを守るため、環境についてももっと勉強していきたい。

5 今後の取り組み

ウミガメと椿町中学校は切り離せない関係となっている。平成14年度は全国ウミガメサミットが当地蒲生田で開催されることになっており、生徒も意欲を持って取り組み、自分たちのウミガメとして誇りを持ちはじめている。この活動を継続することによって、自然環境についての学習を深めていきたい。また、ウミガメの保護観察活動に取り組んでいる他の学校ともインターネット等を通じて連絡を取り合ったり、体験活動と他の教科との関連も充実させたりして、学習の質を高めていきたいと考えている。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校は山と海に囲まれ、豊かな自然環境があるにもかかわらず、子どもたちの自然とのかかわりは乏しいものである。そこで、ここの浜が四国でも有数のアカウミガメの産卵地であることを活用し、体験活動の工夫を行った。絶滅危惧種としてのアカウミガメについて学び、先輩が築いてきた保護観察活動の跡をたどり、ここの浜への上陸個体数も激減していることを知り、子どもたちは自らの問題を意識する。そこから、浜の汚れへ目が向き、汚染の要因を考えたり、卵の採取、孵化への取り組みへと行動が組織されていく。

本校の取組は、地域の特性を生かして、子どもが自ら問題を意識し、その解決へ向けて計画を立て、行動化していく自然体験活動という特徴を持つ。広い意味での環境保護活動を通して、子どもが自ら学び、自ら考えていく力を育む取組といえる。